

歴史・人類学サブプログラム

専門基礎科目(歴人)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
OABA211	日本史学基礎演習IA	2	2.0	1	春AB	応談		山澤 学, 三谷 芳幸, 伊藤 純郎, 中野目 徹, 朴 宣美	大学院学生として身につけるべき史料の解釈とその歴史の意味についての考察を深化させる。大学院学生として求められるレベルの基礎的な研究方法を身につけつつ、修士論文へのアプローチを計画する。文献その他の調査結果に基づく研究の構想を提示し、論文作成に向けての具体的な過程を認識していく。学期を通じて、受講者が順次、自らの研究の方法と内容を中間報告する。	
OABA213	日本史学基礎演習IB	2	2.0	1	秋AB	応談		山澤 学, 三谷 芳幸, 伊藤 純郎, 中野目 徹, 朴 宣美	調査によって収集した史料の解釈とその歴史の意味について、研究史の上に位置づけながら、考察をより深化させる。大学院学生各自の史料調査の結果を整理し、基礎的な研究方法のうえに、修士論文作成に必要な実証の方法と分析結果について提示し、修士論文作成に向けての具体的な過程を認識していくことになる。学期を通じて、受講者が順次、自らの研究の方法と内容を報告する。	
OABA215	日本史学基礎演習IIA	2	2.0	2					日本史学研究の方法論を確認しつつ、実証、すなわち史料解釈の深化を目指し、修士論文の作成に向け、具体的な構想を提示する。日本史学研究のための基礎的な方法論と視角の体得を図り、修士論文作成のための研究計画を具体化させる。学期を通じて、受講者が順次、自らの研究の方法と内容を報告する。	2020年度開講せず。
OABA217	日本史学基礎演習IIB	2	2.0	2					人文学の広い視野に立ちつつ、日本史学を研究する基盤となる能力を高め、修士論文の作成を目指す。先行研究をふまえながら、新たな問題視角に基づき、実証性の深化の上に、自らの研究を理論化して提示する能力を錬成し、先進的な修士論文の完成を図っていく。学期を通じて、受講者が順次、自らの研究の方法と内容を報告し、最終的には修士論文を完成させていく。	2020年度開講せず。
OABA221	東洋史学基礎演習IA	2	2.0	1	春AB	応談		上田 裕之, 丸山 宏, 山本 真, 岩田 啓介	1年次生を対象とする春学期の研究演習。研究テーマに関する先行研究の整理、基本的史料の利用方法等について、基礎的演習を行う。履修者はあらかじめ指導教員の指導・助言を受けて、自身の関心・方法に基づいて研究を進め、本演習において1回ないし複数回の研究報告を行い、東洋史学領域全教員から今後の研究について指導・助言を受けるとともに、その他の履修者とも議論を行う。	
OABA223	東洋史学基礎演習IB	2	2.0	1	秋AB	応談		上田 裕之, 丸山 宏, 山本 真, 岩田 啓介	1年次生を対象とする秋学期の研究演習。研究テーマに関する先行研究の整理、基本的史料の利用方法等について、春学期の内容を踏まえたより実践的な演習を行う。履修者はあらかじめ指導教員の指導・助言を受けて、自身の関心・方法に基づいて研究を進め、本演習において1回ないし複数回の研究報告を行い、東洋史学領域全教員から修士論文の作成を見据えて指導・助言を受けるとともに、その他の履修者とも議論を行う。	
OABA225	東洋史学基礎演習IIA	2	2.0	2					2年次生を対象とする春学期の研究演習。修士論文作成にむけて総括的指導を行う。履修者はあらかじめ指導教員の指導・助言を受けて、自身の関心・方法に基づいて研究を進め、本演習において1回ないし複数回の研究報告を行い、東洋史学領域全教員から修士論文の執筆に着手するための指導・助言を受けるとともに、その他の履修者とも議論を行う。	2020年度開講せず。
OABA227	東洋史学基礎演習IIB	2	2.0	2					2年次生を対象とする秋学期の研究演習。修士論文完成にむけて総括的指導を行う。履修者はあらかじめ指導教員の指導・助言を受けて、自身の関心・方法に基づいて修士論文の執筆を進めながら、本演習において1回ないし複数回の研究報告を行い、東洋史学領域全教員から修士論文の完成を見据えて指導・助言を受けるとともに、その他の履修者とも議論を行う。	2020年度開講せず。
OABA231	西洋史学基礎演習IA	2	2.0	1	春AB	応談		柴田 大輔, 山田 重郎, 佐藤 千登勢, 津田 博司, 村上 宏昭	本授業では研究活動の基本的能力を涵養するために、先行研究の調査・吟味並びに自己の研究テーマに沿って整理するノウハウを習得することを目的としつつ、西洋史学領域全教員の出席のもと、受講生による研究発表を行う。	

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
OABA233	西洋史学基礎演習IB	2	2.0	1	秋AB	応談		柴田 大輔, 山田 重郎, 佐藤 千登勢, 津田 博司, 村上 宏昭	本授業では研究活動の基礎的能力を培うため、一次史料の調査・読解・批判の方法を習得することを目的としつつ、西洋史学全教員の出席のもと、受講生による研究発表を行う。その際、受講生同士の質疑応答に評価の重点を置くことで、研究に必要な批判的能力を涵養する。	
OABA235	西洋史学基礎演習IIA	2	2.0	2					本授業では中間評価論文に向けての研究の事前準備を主たる目的としつつ、西洋史学領域全教員の出席のもと、受講生による研究発表と、それに関するディスカッションをもって進められる。	2020年度開講せず。
OABA237	西洋史学基礎演習IIB	2	2.0	2					本授業では中間評価論文の完成に向けて、これまでの研究成果の総括を行うことを目的としながら、西洋史学領域全教員の出席のもと、受講生による研究発表を行う。その際、先行研究を踏まえた考察を行っているか、一次史料に則った議論をしているか、研究のオリジナリティを説得的な形で提示できているか等の基準に照らして、その到達度を測定する。	2020年度開講せず。
OABA241	歴史地理学基礎演習IA	2	2.0	1	春AB	火4 応談		中西 僚太郎	歴史地理学の修士論文作成に必要な基礎的な知識と研究方法を身につけるとともに、修士論文への構想を立てることができるようにする。主として日本国内ならびに英語圏諸国の地理学関係の学術雑誌に掲載された論文の紹介と討議を通して、従来の研究の到達水準と問題点を把握し、論点の提示の仕方や史料やデータの解読・分析の手法などを学ぶ。それらによって、修士論文作成に向けての具体的な過程について認識する。授業の進め方は、受講者による発表を中心に行う。	
OABA243	歴史地理学基礎演習IB	2	2.0	1	秋AB	火4 応談		中西 僚太郎	大学院生各自が修士論文作成を意識して収集した史料やデータをもとに、その活用方法について、研究史上に位置づけながら考察する。同時に関連する研究文献を読み、史料やデータの意味と活用方法についての理解を深める。これらを通じて、修士論文作成に向けての具体的な過程を認識する。授業の進め方は、受講者による発表を中心に行う。	
OABA245	歴史地理学基礎演習IIA	2	2.0	2					歴史地理学研究の目的と方法を確認しつつ、研究水準の深化と向上を目指し、修士論文の作成に向け、具体的な構想を提示する。修士論文に関わる従来の研究成果を改めて確認し、問題の所在を明確化する。同時に、研究に活用する史料やデータと研究目的・方法との整合性についても検討を進める。それらによって、修士論文作成のための研究計画を具体化させる。授業の進め方は、受講者による発表を中心に行う。	2020年度開講せず。
OABA247	歴史地理学基礎演習IIB	2	2.0	2					歴史地理学を研究する基盤となる能力を高め、修士論文の作成を目指す。従来の研究成果をふまえて、論点の提示の仕方、論旨の進め方と結論のまとめ方、図表の作成方法など、具体的な歴史地理学の論文作成法を確認しながら、研究水準を向上させる論文を作成できる能力を養い、修士論文の完成を図る。授業の進め方は、受講者が自らの研究内容を報告し、最終的には修士論文を完成させる。	2020年度開講せず。
OABA251	先史学・考古学基礎演習IA	2	2.0	1	春AB	応談		谷口 陽子, 三宅 裕, 滝沢 誠, 前田 修	1年次生段階に応じた先史学・考古学分野の修士論文作成のための内容の指導を行うことを目的とする。主として受講者が関心を持っているテーマに即して、受講者による研究発表と討議を通して行う。資料やデータの収集方法とその分析の手法、レビューの方法、論点の提示の仕方、論旨の進め方と結論のまとめ方など、先行研究の批判的検討にもとづく問題点の整理と、その解決に向けたあらたな方法及び資料の提示を求める。毎回の授業では、受講生1~2名がそれぞれの研究テーマに即した研究報告をおこなう。その内容を受けて、先史学・考古学領域全教員と受講生による全体討議をおこなう。	

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
OABA253	先史学・考古学基礎演習IB	2	2.0	1	秋AB	応談		谷口 陽子, 三宅 裕, 滝沢 誠, 前田 修	次年度の修士論文作成に向けて具体的な研究テーマを設定することを目標とする。受講生には、先行研究の批判的検討にもとづく問題点の整理と、その解決に向けたあらたな方法及び資料の提示を求める。毎回の授業では、受講生1~2名がそれぞれの研究テーマに即した研究報告をおこなう。その内容を受けて、先史学・考古学領域全教員と受講生による全体討議をおこなう。	
OABA255	先史学・考古学基礎演習IIA	2	2.0	2					修士論文の作成に向けて研究テーマの深化を図ることを目標とする。受講生には、具体的な資料の分析結果について報告を求める。毎回の授業では、受講生1~2名がそれぞれの研究テーマに即した研究報告をおこなう。その内容を受けて、先史学・考古学領域全教員と受講生による全体討議をおこなう。	2020年度開講せず。
OABA257	先史学・考古学基礎演習IIB	2	2.0	2					修士論文の作成に向けた最終的な研究成果の取りまとめを目標とする。受講生には、最終的な考察の結果について報告を求める。毎回の授業では、受講生1~2名がそれぞれの研究テーマに即した研究報告をおこなう。その内容を受けて、先史学・考古学領域全教員と受講生による全体討議をおこなう。	2020年度開講せず。
OABA261	民俗学・文化人類学基礎演習IA	2	2.0	1	春AB	応談		武井 基晃, 徳丸 亜木, 中野 泰, 木村 周平	修士論文の完成を目標として、論文執筆に関わる指導を行う。1年次生を対象とする基礎的セミナー。民俗学・文化人類学領域全教員の出席のもと、研究テーマについての発表に基づき、参加者による討論を行う。	
OABA263	民俗学・文化人類学基礎演習IB	2	2.0	1	秋AB	応談		武井 基晃, 徳丸 亜木, 中野 泰, 木村 周平	修士論文の完成を目標として、論文執筆に関わる指導を行う。1年次生を対象とする基礎的セミナー。修士論文で扱う研究テーマについて資料収集を進め、整理を成し得た資料に基づいて研究発表を行う。民俗学・文化人類学領域全教員の出席のもと、参加者による討論を行う。	
OABA265	民俗学・文化人類学基礎演習IIA	2	2.0	2					修士論文の完成を目標として、論文の構想に関わる指導を行う。2年次生を対象とするセミナー。民俗学・文化人類学領域全教員の出席のもと、研究テーマについての発表に基づき、参加者による討論を行う。今後の研究課題を明確化し、修士論文の作成を進める。	2020年度開講せず。
OABA267	民俗学・文化人類学基礎演習IIB	2	2.0	2					修士論文の完成を目標として、論文の構想、資料提示と、論旨の展開方法など論文執筆に関わる指導を行う。2年次生を対象とするセミナー。民俗学・文化人類学領域全教員の出席のもと、参加者各人が自己の修士論文テーマに関する研究発表を行い、修士論文を完成させる。	2020年度開講せず。

専門科目(歴史共通)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
OABACP0	修士論文演習A	2	1.0	2					歴史・人類学サブプログラムにおいて修士論文を作成する2年次生が、自己の所属するサブプログラム・専門領域のみならず他学術院・他研究群・他学位プログラム・他サブプログラム・他専門領域の教員も加えて随時に研究指導を受けながら、資料の収集およびその具体的な考察の方法を検討しつつ、修士論文の構想を深めていく。	2020年度開講せず。
OABACP1	修士論文演習B	2	1.0	2					歴史・人類学サブプログラムにおいて修士論文を作成する2年次生が、自己の所属するサブプログラム・専門領域のみならず他学術院・他研究群・他学位プログラム・他サブプログラム・他専門領域の教員も加えて随時に研究指導を受けながら、論文の構成および具体的な執筆方法を検討し、最終的な修士論文の完成を目指す。	2020年度開講せず。

専門科目(歴史学分野)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
------	-----	------	-----	--------	------	-----	----	------	------	----

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
OABACA0	日本史特講IA	1	1.0	1・2					古代の法制史料を輪読し、律令制研究に必要な史料の活用方法を習得する。令の注釈書である『令集解』のテキスト読解と、それを踏まえた制度の展開過程の追究などを行う。具体的には、律令国家の人民支配にかかわる戸令の条文を読み進めていく。戸令全体の解説のあと、戸令17絶貫条(浮浪人・逃亡人・解放奴隷の登録、本籍地への帰還など)、戸令18造計帳条(計帳の作成主体・作成方法、戸籍の転写など)、戸令19造戸籍条(戸籍の作成部数・記載事項・提出先・調査・訂正など)の各条を読解していき、最後に戸籍・計帳制度について全体的な考察を行う。	02DC299と同一。 2020年度開講せず。
OABACA1	日本史特講IB	1	1.0	1・2					古代の法制史料を輪読し、律令制研究に必要な史料の活用方法を習得する。令の注釈書である『令集解』のテキスト読解と、それを踏まえた制度の展開過程の追究などを行う。具体的には、律令国家の人民支配にかかわる戸令の条文を読み進めていく。戸令全体の解説のあと、戸令20造帳籍条(国司による人の実検、人の区分の決定・訂正)、戸令21籍送条(調使・専使による戸籍提出)、戸令22戸籍条(戸籍の保存期間、庚午年籍の永久保存)、戸令23応分条(家人・奴婢の相続、氏賤の除外、田宅・資財・功田・功封の相続、嫡母・継母・嫡子・庶子の相続割合)の各条を読解していき、最後にその成果を総括する。	02DC300と同一。 2020年度開講せず。
OABACA2	日本史特講IIIA	1	1.0	1・2	春C	集中		山澤 学	本特講では、神社の祭祀・組織を中心とした日本宗教社会史研究における基礎的知識と研究方法を修得する。また、文献史料を読解する能力の向上にも努める。具体的には、京都の北野天満宮(北野神社)の祭祀・組織を事例として、先行研究の検討をふまえ、未公開であり、くずし字で記されている神社史料(筑波大学所蔵北野神社文書「明和度遷宮記」)の写真版を読解し、日本宗教社会史研究における基礎的知識と研究方法を講ずる。必要に応じて履修者には史料読解に基づく報告も求める。	西暦偶数年度開講。 02DC301と同一。
OABACA3	日本史特講IIB	1	1.0	1・2	秋AB	月4,5		山澤 学	本特講では、神社の祭祀・組織を中心とした日本宗教社会史研究における基礎的知識と研究方法を修得する。文献史料を読解する能力の向上に努めつつ、論文作成に向けての視点を考察する。具体的には、京都の北野天満宮(北野神社)遷宮に参与する諸身分とその組織を事例として、先行研究の検討をふまえ、未公開であり、くずし字で記されている神社史料(筑波大学所蔵北野神社文書「就仮遷宮深齋中雜録」)の写真版を読解し、日本宗教社会史研究における基礎的知識と研究方法を講じつつ、論文作成に向けての視点を検討する。必要に応じて履修者には史料読解に基づく報告も求める。	西暦偶数年度開講。 02DC302と同一。
OABACA4	日本史特講IIIA	1	1.0	1・2					日本史学研究の基礎領域である史料学の研究動向を理解するとともに、各自の今後の研究への応用の視点を獲得する。日本近現代史料学について講義する。日本近現代史研究の基礎となる史料学について、古文書学やアーカイブズ学の成果を援用しながら独自の史料学の領域を構築することを目指す。春学期は史料学の研究史や法制度を中心に取り上げる。	02DC303と同一。 2020年度開講せず。
OABACA5	日本史特講IIIB	1	1.0	1・2					日本史学研究の基礎領域である史料学の研究動向を理解すると共に各自の今後の研究への応用の視点を獲得する。日本近現代史料学の具体的問題について講義する。日本近現代史研究の基礎となる史料学について、古文書学やアーカイブズ学の成果を援用しながら独自の史料学の領域を構築することを目指す。秋学期は史料保存の現状と史料学の研究課題について講義する。	02DC304と同一。 2020年度開講せず。
OABACA6	日本史特講IVA	1	1.0	1・2	春C	集中		朴 宣美	近代日本における女子高等教育の発展、近代的なジェンダー意識の形成と変容などについて考察する。社会文化史・ジェンダー史を考察する視点の習得を目標とする。	西暦偶数年度開講。 02DC305と同一。
OABACA7	日本史特講IVB	1	1.0	1・2	秋AB	木3,4		朴 宣美	朝鮮における女子高等教育の発展、近代的なジェンダー意識の形成と変容などについて考察する。特に近代日本との比較を行い、近現代東アジアにおける社会文化史・ジェンダー史を考察する比較の視点の習得を目標とする。	西暦偶数年度開講。 02DC306と同一。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
OABAC8	日本史特講VA	1	1.0	1・2	春C	集中		伊藤 純郎	昭和戦前期の満州移民について、先行研究の検討、関連文献の精読、関連資料の所蔵調査、およびフィールドワークを行う。春学期は、試験移民(武装移民)・満蒙開拓青少年義勇軍について講義する。あわせて満蒙開拓青少年義勇軍関連施設の巡検を行う。	西暦偶数年度開講。 02DC307と同一。
OABAC9	日本史特講VB	1	1.0	1・2	秋AB	金3		伊藤 純郎	昭和戦前期の満州移民について、先行研究の検討、関連文献の精読、関連資料の所蔵調査、およびフィールドワークを行う。秋学期は、分村移民・分郷移民について講義する。あわせてわが国で最初に分村移民を行った長野県大日向村の巡検を行う。	西暦偶数年度開講。 02DC308と同一。
OABAC0	日本史演習IA	2	1.0	1・2	春AB	火5		三谷 芳幸	古代の法制史料を精読し、律令制研究に必要な史料読解の方法を習得する。令の注釈書である『令集解』のテキスト読解と、それを踏まえた日中の制度比較などを行う。具体的には、律令国家の人民支配にかかわる戸令の条文を読み進めていく。戸令全体の解説のあと、戸令9五家条(家の相互検査や人の移動の把握)以降の各条を読解し、最後にその成果を総括する。	西暦偶数年度開講。 02DC309と同一。
OABAC1	日本史演習IB	2	1.0	1・2	秋AB	火5		三谷 芳幸	古代の法制史料を精読し、律令制研究に必要な史料読解の方法を習得する。令の注釈書である『令集解』のテキスト読解と、それを踏まえた日中の制度比較などを行う。具体的には、律令国家の人民支配にかかわる戸令の条文を読み進めていく。戸令全体の解説のあと、戸令11給侍条(子孫・近親による高齢者介護)以降の各条を読解し、最後にその成果を総括する。	西暦偶数年度開講。 02DC310と同一。
OABAC2	日本史演習IIA	2	1.0	1・2					本演習では、近世史料を講読しつつ、神社の祭祀・組織を中心とした日本宗教社会史研究における基礎的知識と研究方法を修得する。具体的には、京都の北野天満宮(北野神社)における祭祀・組織を事例とし、先行研究の検討をふまえて、未公開であり、くずし字で記されている神社史料(筑波大学所蔵北野神社文書「就仮遷宮潔斎中雜録」)の写真版を読解し、日本宗教社会史研究における基礎的知識を修得しつつ、その研究方法を検討する。	02DC311と同一。 2020年度開講せず。
OABAC3	日本史演習IIB	2	1.0	1・2					本演習では、近世史料を講読し、神社の祭祀・組織を中心とした日本宗教社会史研究における基礎的知識と研究方法を修得しつつ、論文作成能力を錬成する。具体的には、京都の北野天満宮(北野神社)遷宮に参与する祭祀・組織に注目し、先行研究の検討をふまえて、未公開であり、くずし字で記されている神社史料(筑波大学所蔵北野神社文書の享保19・20年仮遷宮記)を読解し、日本宗教社会史研究における基礎的知識を学びつつ研究方法を検討し、論文作成に向けての視点を考察する。	02DC312と同一。 2020年度開講せず。
OABAC4	日本史演習IIIA	2	1.0	1・2	春C	集中		中野目 徹	日本近代思想史に関する文献を講読する演習授業。春学期は明治・昭和期に活動した思想家・ジャーナリストである三宅雪嶺(1860~1945)の自伝『自分を語る』を精読する。日本近現代史におけるジャーナリズムと思想の関係を、三宅雪嶺を中心に徳富蘇峰との比較において検討する。自伝史料の詳細な分析を行なう。	西暦偶数年度開講。 02DC313と同一。
OABAC5	日本史演習IIIB	2	1.0	1・2	秋AB	火2		中野目 徹	日本近代思想史に関する文献を講読する演習授業。秋学期は、前期に引き続き三宅雪嶺のもう一つの自伝である『大学今昔譚』を精読する。その際、自伝が連載された雑誌『婦人之友』と、それに掲載された他の回想的論説にも注意を払いながら進めていく。三宅とは同時代に活動した徳富蘇峰との比較に留意する。	西暦偶数年度開講。 02DC314と同一。
OABAC6	日本史演習IVA	2	1.0	1・2					近代日本における「他者認識」・アジア認識に関する先行研究への「テキスト批判」を行う。日本の研究を中心に上げつつ、ほかのアジアにおける研究との比較を行う。このテーマに対する研究的考察ができることを目標とする。	02DC315と同一。 2020年度開講せず。
OABAC7	日本史演習IVB	2	1.0	1・2					近代東アジアにおける「他者認識」・アジア認識に関する先行研究への「テキスト批判」を行う。韓国を中心に、日本における先行研究との比較を視野に入れながら、先行研究の問題意識や論点、研究史的な位置づけなどを明らかにすることを目標とする。	02DC316と同一。 2020年度開講せず。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
OABACB8	日本史基礎実習	3	2.0	1・2	春C	集中		山澤 学, 三谷 芳幸, 伊藤 純郎, 中野目 徹, 朴 宣美	日本史研究の基礎的な方法論を修得するため、実際に調査・観察するフィールドワークを行う。受講者は、日本史学領域全教員による通史的視野に立った指導を受けつつ、具体的な調査地を設定し、事前に調査地および日本史学研究者として身につけるべき調査の技能を学んだ上で、集中形式で調査地におけるフィールドワークを実施していく。これらを通じて、研究倫理をふまえ、協同して行う史料閲覧・撮影、聞き取り調査、景観観察等の技術を修得する。	02DC317と同一。
OABACB9	日本史研究法実習	3	2.0	1・2					日本史学研究の専門的な方法論を修得するため、実際に調査・観察するフィールドワークを行い、日本史学研究の専門的素養である実証調査の方法と問題点を検討する。受講者は、日本史学領域全教員による通史的視野に立った指導を受けつつ、事前に調査地に関する学修およびその成果の報告を行った後に、集中形式で調査地におけるフィールドワークを協同して行う。その上で、史料閲覧・撮影、聞き取り調査、景観観察など、専門的調査における方法・問題点を考察し、研究倫理を含む日本史学研究者として必要な姿勢を体得していく。	02DC318と同一。 2020年度開講せず。
OABACD0	東洋社会文化史IA	2	1.0	1・2	春AB	火5		丸山 宏	中国明清時代の少数民族社会における道教の受容の歴史について、写本資料を講読しながら理解を深めその意義を講義する。清末広西のランテン系や才族社会で使用された『大齋秘語』を講読し、道教写本の研究手法、明清道教史、道教の多元性、漢族と少数民族の道教の異同を論じる方法を検討する。特に死者儀礼における身体の再生の部分をつかい、儀礼的枠組みの大きな共通性と生命論の解釈の民族的・地域的独自性を検討する。	西暦偶数年度開講。 01DQ399, 02DC403と同一。
OABACD1	東洋社会文化史IB	2	1.0	1・2	秋AB	火5		丸山 宏	中国南宋時代の社会において行われた道教儀礼を取り上げ、儀礼文献の解説と分析を交えながら講義する。この授業では13世紀の金允中『上清靈宝大宝法』巻16黄籙次序品、巻22臨壇符法品により、道教儀礼の構造と主要な儀礼項目内容を検討し、文献資料に現れる語彙、構文、意味について習熟し、宋代を軸とする中国社会における道教儀礼の理解を深める。	西暦偶数年度開講。 01DQ400, 02DC404と同一。
OABACD2	東洋社会文化史IIA	2	1.0	1・2					中国南宋時代の社会において行われた道教儀礼を取り上げ、儀礼文献の解説と分析を交えながら講義する。この授業では13世紀の金允中『上清靈宝大宝法』巻37水火録度品、巻44録度品により、道教の死者儀礼に見られる死者への働きかけ、特に練度と説戒について考察を加える。同時代の王契真『上清靈宝大法』、蔣叔興『無上黄籙大齋立成儀』などとの比較も行い、宋代を軸とする中国社会における道教儀礼の理解を深める。	02DC405と同一。 2020年度開講せず。
OABACD3	東洋社会文化史IIB	2	1.0	1・2					中国清時代の18世紀後半から19世紀前半における道教の実態について、『道藏輯要』所収の呂祖經典である『玉清贊化九天演政心印集経』、『玉清贊化九天演政心印宝懺』、『九皇新経註解』を取り上げ、部分的に講読しながら、清朝道教史をその独自の発展や活力の視点から捉え直すことを試みる。儒教、道教の典籍を当時の道教界に属した知識人と同次元で理解することにより、民間社会における宗教の力量について考察する。	02DC406と同一。 2020年度開講せず。
OABACD4	東洋政治経済史IA	2	1.0	1・2	春AB	金4		山本 真	1~2年次生を対象とする。中国の近代史について、特に政治史の重要な先行研究を履修者とともに講読する。テキストでは中国語、日本語、英語の文献を採用する。受講者は輪番でレジュメを作成し、それに基づき参加者全員で議論を行いたい。	西暦偶数年度開講。 01DQ365, 02DC407と同一。
OABACD5	東洋政治経済史IB	2	1.0	1・2	秋AB	金4		山本 真	1~2年次生を対象とする。中国の現代史について、特に政治史の重要な先行研究を履修者とともに講読する。テキストでは中国語、日本語、英語の文献を採用する。受講者は輪番でレジュメを作成し、それに基づき参加者全員で議論を行いたい。	西暦偶数年度開講。 01DQ366, 02DC408と同一。
OABACD6	東洋政治経済史IIA	2	1.0	1・2					1~2年次生を対象とする。中国の近代史について、特に社会経済史の重要な先行研究を履修者とともに講読する。テキストでは中国語、日本語、英語の文献を採用する。受講者は輪番でレジュメを作成し、それに基づき参加者全員で議論を行いたい。	02DC409と同一。 2020年度開講せず。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
OABACD7	東洋政治経済史IIB	2	1.0	1・2					1~2年次生を対象とする。中国の現代史について、特に社会経済史の重要な先行研究を履修者とともに講読する。テキストでは中国語、日本語、英語の文献を採用する。受講者は輪番でレジュメを作成し、それに基づき参加者全員で議論を行いたい。	O2DC410と同一。 2020年度開講せず。
OABACD8	東洋史史料研究IA	2	1.0	1・2	春AB	金6		上田 裕之	清代雍正年間から乾隆20年までの錢法について解説した上で、当該時期の錢法に関する檔案史料を受講生全員で講読し、官撰書の記載内容と比較しながら、檔案史料から読み取れる事実関係について議論する。講読する史料は、『雍正朝内閣六科史書戸科』『内閣題本戸科貨幣類』『明清檔案』『宮中檔硃批奏摺財政類』『宮中檔雍正朝奏摺』『宮中檔乾隆朝奏摺』『議覆檔』『大清歷朝實錄』『皇朝文獻通考』『欽定大清會典事例』など。	西暦偶数年度開講。 O2DC411と同一。
OABACD9	東洋史史料研究IB	2	1.0	1・2	秋AB	金6		上田 裕之	清代雍正年間から乾隆20年までの銅政について解説した上で、当該時期の銅政に関する檔案史料を受講生全員で講読し、官撰書の記載内容と比較しながら、檔案史料から読み取れる事実関係について議論する。講読する史料は、『雍正朝内閣六科史書戸科』『内閣題本戸科貨幣類』『明清檔案』『宮中檔硃批奏摺財政類』『宮中檔雍正朝奏摺』『宮中檔乾隆朝奏摺』『議覆檔』『大清歷朝實錄』『皇朝文獻通考』『欽定大清會典事例』など。	西暦偶数年度開講。 O2DC412と同一。
OABACE0	東洋史史料研究IIA	2	1.0	1・2					清代乾隆21~60年の錢法について解説した上で、当該時期の錢法に関する檔案史料を受講生全員で講読し、官撰書の記載内容と比較しながら、檔案史料から読み取れる事実関係について議論する。講読する史料は、『雍正朝内閣六科史書戸科』『内閣題本戸科貨幣類』『明清檔案』『宮中檔硃批奏摺財政類』『宮中檔雍正朝奏摺』『宮中檔乾隆朝奏摺』『議覆檔』『大清歷朝實錄』『皇朝文獻通考』『欽定大清會典事例』など。	O2DC413と同一。 2020年度開講せず。
OABACE1	東洋史史料研究IIB	2	1.0	1・2					清代乾隆21~60年の銅政について解説した上で、当該時期の銅政に関する檔案史料を受講生全員で講読し、官撰書の記載内容と比較しながら、檔案史料から読み取れる事実関係について議論する。講読する史料は、『雍正朝内閣六科史書戸科』『内閣題本戸科貨幣類』『明清檔案』『宮中檔硃批奏摺財政類』『宮中檔雍正朝奏摺』『宮中檔乾隆朝奏摺』『議覆檔』『大清歷朝實錄』『皇朝文獻通考』『欽定大清會典事例』など。	O2DC414と同一。 2020年度開講せず。
OABACE2	東洋民族社会史IA	2	1.0	1・2	春AB	木4		岩田 啓介	17世紀後半から18世紀前半にかけて清朝とモンゴル・チベットの有力者との間で取り交わされた文書を収録する『清内閣蒙古堂檔』所収の満洲語の檔案を受講生全員で講読する。また、特に18世紀前半に清朝がモンゴルへの統治を拡大する中で、清朝のモンゴル政策が、現地社会の動向とどのように関連していたのかを議論する。	西暦偶数年度開講。 O2DC41Aと同一。
OABACE3	東洋民族社会史IB	2	1.0	1・2	秋AB	木4		岩田 啓介	清朝の康熙年間(1661-1722)における奏摺を収録する「康熙朝滿文硃批奏摺」から、特に18世紀初頭のチベット政策に関する満洲語の奏摺を受講生全員で講読する。そして、18世紀前半に清朝がチベットへの影響力を拡大する中で、清朝のチベット政策がいかんして策定され、それがダライ=ラマ政權の対外政策とどのように関連していたのかを議論する。	西暦偶数年度開講。 O2DC41Bと同一。
OABACE4	東洋民族社会史IIA	2	1.0	1・2					清朝におけるモンゴルやチベットとの境界地域に注目して、その社会の政治史を検討する。	西暦奇数年度開講。 O2DC41Cと同一。 2020年度開講せず。
OABACE5	東洋民族社会史IIB	2	1.0	1・2					清朝におけるモンゴル政策、チベット政策について満洲語史料に基づいて検討する。	西暦奇数年度開講。 O2DC41Dと同一。 2020年度開講せず。
OABACF0	古代西アジア史研究特講IA	2	1.0	1・2	春AB	火5		山田 重郎	古代メソポタミアの歴史記述について体系的に学び、古代メソポタミアの人々の歴史観の変遷を考察する。楔形文字の原典から古代メソポタミアの種々の歴史文書を文献学的に正確に読み、その内容について考察する。この授業では特にシュメルとバビロニアの碑文を講読する。	O2DC507と同一。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
OABACF1	古代西アジア史研究特講IB	2	1.0	1・2	秋AB	火5		山田 重郎	古代メソポタミアの歴史記述について体系的に学び、古代メソポタミアの人々の歴史観の変遷を考察する。楔形文字の原典から古代メソポタミアの種々の歴史文書を文献的に正確に読み、その内容について考察する。この授業では特にアッシリアの碑文を講読する。	02DC508と同一。
OABACF2	古代西アジア史研究特講IIA	2	1.0	1・2	春AB	金2		柴田 大輔	シュメル語初級文法の概要を学ぶ。紀元前22～20世紀(グデア王朝時代・ウル第三王朝時代・イシン王朝時代)におけるいわゆる「古典シュメル語」の特性に焦点を絞り、文法概要の説明と練習問題の実施を交互させながら、音韻論、正字法、名詞句、動詞語幹と名詞形、格、代名詞、定動詞の活用、動詞と名詞の関わり方、法性・否定・接続の順番で学習する。	02DC509と同一。
OABACF3	古代西アジア史研究特講IIB	2	1.0	1・2	秋AB	金2		柴田 大輔	シュメル語の読解能力を習得するとともに、紀元前三千年紀の楔形文字書体を学習し、原史料の読解に基づく古代西アジア史研究についての理解を深める。ウル第三王朝期の碑文、グデア王朝期の碑文、ウル第三王朝期の法文書の中から、言語の習得に適切な平易なサンプルを選び、講読する。	02DC510と同一。
OABACF4	ヨーロッパ・アメリカ史研究特講IA	2	1.0	1・2	春AB	火4		津田 博司	第2次世界大戦前のイギリスおよび旧イギリス帝国圏の歴史についての論集を講読する。必要に応じて、受講生による発表を課す。	01DQ227, 02DC511と同一。
OABACF5	ヨーロッパ・アメリカ史研究特講IB	2	1.0	1・2	秋AB	火4		津田 博司	第2次世界大戦後のイギリスおよび旧イギリス帝国圏の歴史についての論集を講読する。必要に応じて、受講生による発表を課す。	01DQ228, 02DC512と同一。
OABACF6	ヨーロッパ・アメリカ史研究特講IIIA	2	1.0	1・2	春AB	木3		佐藤 千登勢	20世紀のアメリカ合衆国における、貧困と失業、社会保障・社会福祉の歴史について考察する。授業の前半では、世紀転換期の革新主義の時代から、1930年代のニューディール、第二次世界大戦期を経て1960年代の「偉大な社会」に至るまで、社会政策が拡充していった歴史的過程を検討する。その後、1970年代以降、アメリカ経済が停滞する中で社会政策が後退を余儀なくされ、新たな社会福祉モデルが追及されていくようになった状況を見ていく。毎回、それぞれのテーマに応じた英語の文献を読みながら、授業を進めていく。	02DC513と同一。
OABACF7	ヨーロッパ・アメリカ史研究特講IIB	2	1.0	1・2	秋AB	木3		佐藤 千登勢	20世紀のアメリカ合衆国における、医療の歴史について考察する。授業の前半では、アメリカ史において医療がどのように研究されてきたのかを理解するために、主要な研究を概観する。その後、世紀転換期の革新主義の時代の医療を取り上げた論文を講読する。授業の後半では、アメリカの医療史の中で、人種・エスニシティ、ジェンダーの視点がどのように取り入れられてきたのかを学び、関連する論文を講読する。さらに、医療制度や医療保険をめぐる現代的な問題について理解を深めるために、医療政策を扱った論文を講読する。	02DC514と同一。
OABACF8	ヨーロッパ・アメリカ史研究特講IIIA	2	1.0	1・2	春AB	木5		村上 宏昭	ヨーロッパ史研究に関連する文献・テーマを紹介しながら、歴史学研究の基礎的方法論を習得することを目的とする。歴史学の方法論は隣接諸分野から多くを借用しているため、本授業で取り上げられる文献やテーマも社会学や哲学、人類学など、歴史学以外のものも含まれる。なお授業は指定のテキストを参照しながらディスカッション形式で行われる。毎回テキストの該当箇所を指示しておく。この授業では特に哲学のテキストを参照する。	01DQ223, 02DC515と同一。
OABACF9	ヨーロッパ・アメリカ史研究特講IIB	2	1.0	1・2	秋AB	木5		村上 宏昭	ヨーロッパ史研究に関連する文献・テーマを紹介しながら、歴史学研究の基礎的方法論を習得することを目的とする。歴史学の方法論は隣接諸分野から多くを借用しているため、本授業で取り上げられる文献やテーマも社会学や哲学、人類学など、歴史学以外のものも含まれる。なお授業は指定のテキストを参照しながらディスカッション形式で行われる。毎回テキストの該当箇所を指示しておく。この授業では特に社会学・人類学のテキストを参照する。	01DQ224, 02DC516と同一。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
OABACH0	歴史地理学特講A	1	1.0	1・2	春AB	火3		中西 僚太郎	日本の絵図・地図ならびに文書史料と統計資料に関して、近年の研究動向を把握するとともに、それらの歴史地理学における活用方法を身に付けることが目的である。授業の前半では日本の絵図・地図、後半では文書・統計に関して、従来の歴史地理学の研究を紹介したのち、それらの活用方法について検討する。具体的には、前半では古代・中世の絵図、近世の国絵図・城下絵図、町絵図、街道絵図、村絵図、近代の地籍図、絵地図を取り上げ、後半では近世の町方文書、村方文書、近代の役場文書、私文書などを取り上げる。	西暦偶数年度開講。 02DC562と同一。
OABACH1	歴史地理学特講B	1	1.0	1・2	秋AB	火3		中西 僚太郎	日本の近代の地域形成に関わる歴史地理学的諸問題について、従来の研究成果の到達点について理解するとともに、様々な史資料の活用方法を身に付けることが目的である。授業の前半では従来の研究論文を受講生とともに講読する。具体的には、大都市形成、地方都市形成、農業地域形成、交通網の形成、工業地域形成に関する論文を取り上げる。授業の後半では日本の近代の地誌、旅行記録、案内記を具体的に取り上げて、その活用方法を学習する。	西暦偶数年度開講。 02DC563と同一。
OABACH2	歴史地理学演習A	2	1.0	1・2					日本の農山漁村の歴史地理学的諸問題に関して、従来の研究の到達点について理解するとともに、今後の研究課題を見出す能力を身に付けることが目的である。日本の農山漁村の歴史地理学的諸問題に関して、従来の研究論文を受講生とともに講読することによって授業を進める。具体的には、古代・中世の農村・農業、山村・林業、漁村・漁業、近世の農村(村落構造・家族構造)・農業、農業経営、山村・林業、漁村・漁業、近代の農村(土地利用・村落構造・家族構造)、農法、農業経営、山村・林業、漁村・漁業などに関する論文の講読を行う。	02DC564と同一。 2020年度開講せず。
OABACH3	歴史地理学演習B	2	1.0	1・2					日本および中国の近代の地域形成に関わる歴史地理学的諸問題について、従来の研究成果の到達点について理解するとともに、様々な史資料の活用方法を身に付けることが目的である。授業の前半では従来の研究論文を受講生とともに講読する。具体的には、大都市形成、地方都市形成、農業地域形成、交通網の形成、工業地域形成に関する論文を取り上げる。授業の後半では日本および中国の近代の地誌、旅行記録、案内記を具体的に取り上げて、その活用方法を学習する。	02DC565と同一。 2020年度開講せず。
OABACH4	歴史地理学実習IA	3	2.0	1・2		夏季休業中	集中	中西 僚太郎	歴史地理学分野での学術論文・学術報告を作成できる調査能力を養うことを目的とする。特定地域をフィールドに選び、野外での観察や調査の方法を実地で指導する。具体的には、調査の計画立案から、自然景観および人文景観の観察、土地利用の調査、石造物の調査、建築物の調査、公文書ならびに私蔵文書史料の調査、聞き取り調査などの方法を実地で指導する。受講生の積極的・主体的な取り組みを重視し、フィールドでの学習の過程で、自ら問題を見出すこともねらいとする。	西暦偶数年度開講。 02DC566と同一。
OABACH5	歴史地理学実習IB	3	2.0	1・2	秋C	集中		中西 僚太郎	歴史地理学における野外実習結果の分析方法とまとめ方を指導し、歴史地理学分野での学術論文・学術報告を作成できる能力を養うことを目的とする。具体的には、歴史地理学実習IAにおける自然景観・人文景観の観察、土地利用の調査、石造物の調査、建築物の調査、公文書ならびに私蔵文書史料の調査、聞き取り調査などの結果を、どのように分析・表現して、学術論文・学術報告としてまとめることができるのかを指導する。授業の最後に受講生は調査結果のレポートを作成して提出する。	西暦偶数年度開講。 02DC567と同一。
OABACH6	歴史地理学実習IIA	3	2.0	1・2					歴史地理学分野での学術論文・学術報告を作成できる調査能力を養うことを目的とする。歴史地理学実習IAとは異なる地域をフィールドに選び、野外での観察や調査の方法を実地で指導する。具体的には、調査の計画立案から、自然景観および人文景観の観察、土地利用の調査、石造物の調査、建築物の調査、公文書ならびに私蔵文書史料の調査、聞き取り調査などの方法を実地で指導する。受講生の積極的・主体的な取り組みを重視し、フィールドでの学習の過程で、自ら問題を見出すこともねらいとする。	02DC568と同一。 2020年度開講せず。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
OABACH7	歴史地理学実習IIB	3	2.0	1・2					歴史地理学における野外実習結果の分析方法とまとめ方を指導し、歴史地理学分野での学術論文・学術報告を作成できる能力を養うことを目的とする。具体的には、歴史地理学実習IIAにおける自然景観・人文景観の観察、土地利用の調査、石造物の調査、建築物の調査、公文書ならびに私蔵文書史料の調査、聞き取り調査などの結果を、どのように分析・表現して、学術論文・学術報告としてまとめることができるのかを指導する。授業の最後に受講生は調査結果のレポートを作成して提出する。	02DC569と同一。 2020年度開講せず。

専門科目(人類学分野)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
OABACJ0	先史学・考古学研究IA	2	1.0	1・2	春AB	月5		三宅 裕	狩猟採集民社会では、食料の分配など平等主義的な社会原理が強く働いていることが指摘されている。そこからどのように社会的不平等が生まれ、階層化社会が形成されるようになるのか、先史時代における社会的不平等の発生をテーマとした Flannery, K. and J. Marcus 2012 "The Creation of Inequality" をテキストとして、特に狩猟採集と農耕との関係、儀礼関係する建物や威信財について扱った章を読みながら理解を深める。さらに、各章の内容を題材にして、関連する文献にも触れながら幅広い観点から議論をおこなう。	西暦偶数年度開講。 02DC625と同一。
OABACJ1	先史学・考古学研究IB	2	1.0	1・2	秋AB	月5		三宅 裕	平等主義的原理が強く働く狩猟採集民社会からどのようにして社会的不平等が発生していくのか、そのメカニズムについて先史時代の考古学的資料を基に考察を深めていく。特に、洞窟壁画や動産美術などの旧石器時代の芸術、シンボリズムや血縁的集団の形成と深い関係にある儀礼祭祀、狩猟採集民社会における定住化の問題、農耕と社会の階層化の関係、饗宴が果たした役割、公共建造物の出現、象徴的意味の付与された器物の生産など、それぞれのテーマが議論されている英文の論文を読み、それを基にした議論を通じて理解を深める。	西暦偶数年度開講。 02DC626と同一。
OABACJ2	先史学・考古学研究IIA	2	1.0	1・2					人類社会の適応戦略について幅広い視点から考察する先史学の方法と理論について理解を深める。狩猟採集社会の特徴について多面から検討しているテキストを講読し、議論を通じて先史時代の社会について考察する。受講者がテキストの中から担当する文献を選び、その内容について発表した後、討論をおこない、それぞれのテーマに関する理解を深めていく。	02DC627と同一。 2020年度開講せず。
OABACJ3	先史学・考古学研究IIB	2	1.0	1・2					人類社会の適応戦略について幅広い視点から考察する先史学の方法と理論について理解を深める。初期農耕社会の特徴について多面から検討しているテキストを講読し、議論を通じて先史時代の社会について考察する。テキストとして指定された論文を読み、受講者がその内容について発表し、それを受けて議論していく。	02DC628と同一。 2020年度開講せず。
OABACJ4	先史学・考古学研究IIIA	2	1.0	1・2	春AB	木5		滝沢 誠	古墳時代は日本列島中央部における国家形成期と位置づけられ、各地域社会を横断する汎列島規模での重層的な政治構造が成立した時期と考えられる。この授業では、古墳の存在形態をめぐる従来の議論を批判的に検討しながら、古墳時代における政治構造の変遷とその特質について専門的知識を深めることを目標とする。毎回の授業では、古墳の存在形態をめぐるこれまでの議論とその問題点について、受講生1名が研究報告をおこなう。その内容を受けて教員による講義と全体での討議をおこない、古墳時代の政治構造を多角的かつ通時的に考察する。	西暦偶数年度開講。 02DC629と同一。
OABACJ5	先史学・考古学研究IIIB	2	1.0	1・2	秋AB	木5		滝沢 誠	弥生時代から古墳時代にかけての社会変化を理解するにあたり、前方後円墳に代表される古墳がどのような経緯で成立したのかを明らかにすることは、きわめて重要な課題である。この授業では、各地に認められる弥生墳丘墓の実態を把握したうえで、古墳出現の歴史的意義について理解を深める。授業の前半で弥生墳丘墓の実態把握を進め、授業の後半で纏向型前方後円墳と東日本の前方後円墳について検討する。毎回の授業では、個別のテーマについて1名の受講生が研究報告をおこなう。その内容を受けて教員による講義と全体での討議をおこない、古墳出現の歴史的意義を考察する。	西暦偶数年度開講。 02DC630と同一。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
OABACJ6	先史学・考古学研究IVA	2	1.0	1・2					弥生時代には、拠点集落を中核とした地域社会の構造が典型的に認められるが、古墳時代になると、一般の集落から独立したかたちで首長居館が成立し、一般の集落は散在化する。この授業では、主に関東地方の事例分析にもとつきながら、古墳時代における地域社会の特質について理解を深める。古墳時代の居住域、墓域、生産域などにかかわる個別のテーマについて、毎回1名の受講生が研究報告をおこなう。その内容を受けて教員による講義と全体での討議をおこない、古墳時代における地域社会の構造的特質について考察する。	02DC631と同一。 2020年度開講せず。
OABACJ7	先史学・考古学研究IVB	2	1.0	1・2					古墳時代の考古資料には、近畿地方の政治勢力とのかわりを示すものとは別に、特定の地域にのみ分布する考古資料も少なからず存在する。この授業では、そうした地域的偏在性を示す考古資料を取り上げて、古墳時代の地域色とその背景について理解を深める。 地域的偏在性を示す古墳時代資料のうち、東海地方と関東地方の事例を取り上げて、毎回1名の受講生が研究報告をおこなう。その内容を受けて教員による講義と全体での討議をおこない、古墳時代の地域色について考察する。	02DC632と同一。 2020年度開講せず。
OABACJ8	先史学・考古学研究VA	2	1.0	1・2	春AB	金3		谷口 陽子	先史学研究に求められる材質分析、製作技法の解明、年代測定、産地推定、古環境復元といった考古学、考古化学に関する理論と実践について、それぞれの原理と課題について理解を深めることを目的とする。その上で、それらの成果から導き出される先史学・考古学的な解釈を含んだ最新の論文等を読解し、幅広い視点からその結果および課題を考察する。受講生の研究テーマを考慮のうえ、いくつかの特定の時代および地域に注目し、とくに産地推定に関する最新の学術論文を選択する。論文中に利用されている分析手法の理論を理解したうえで、内容を読解、考察しながらその方法論と課題について検討する。各回のテーマについて、毎回1名の受講生が理論についてまとめ、次に、結果の解釈・課題について研究報告をおこなう。つづいて、その内容について全体で討議をおこなう。	西暦偶数年度開講。 02DC633と同一。
OABACJ9	先史学・考古学研究VB	2	1.0	1・2	秋AB	金3		谷口 陽子	先史学研究に求められる材質分析、製作技法の解明、年代測定、産地推定、古環境復元といった考古学、考古化学に関する理論と実践について、それぞれの原理と課題について理解を深めることを目的とする。その上で、それらの成果から導き出される先史学・考古学的な解釈を含んだ最新の論文等を読解し、幅広い視点からその結果および課題を考察する。受講生の研究テーマを考慮のうえ、いくつかの特定の時代および地域に注目し、とくに年代測定に関する最新の学術論文を選択する。論文中に利用されている分析手法の理論を理解したうえで、内容を読解、考察しながらその方法論と課題について検討する。各回のテーマについて、毎回1名の受講生が理論についてまとめ、次に、結果の解釈・課題について研究報告をおこなう。つづいて、その内容について全体で討議をおこなう。	西暦偶数年度開講。 02DC634と同一。
OABACKO	先史学・考古学研究VIA	2	1.0	1・2					先史学研究に求められる材質分析、製作技法の解明、年代測定、産地推定、古環境復元といった考古学、考古化学に関する理論と実践について、それぞれの原理と課題について理解を深めることを目的とする。その上で、それらの成果から導き出される先史学・考古学的な解釈を含んだ最新の論文等を読解し、幅広い視点からその結果および課題を考察する。受講生の研究テーマを考慮のうえ、いくつかの特定の時代および地域に注目する。とくに材質分析に関する最新の学術論文を選択し、そこに利用されている分析手法の理論を理解する。選択した論文を読解、考察しながらその方法論と課題について検討する。各回のテーマについて、毎回1名の受講生が理論についてまとめ、次に、結果の解釈・課題について研究報告をおこなう。つづいて、その内容について全体で討議をおこなう。	02DC635と同一。 2020年度開講せず。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
OABACK1	先史学・考古学研究VIB	2	1.0	1・2					先史学研究に求められる材質分析、製作技法の解明、年代測定、産地推定、古環境復元といった考古学、考古化学に関する理論と実践について、それぞれの原理と課題について理解を深めることを目的とする。その上で、それらの成果から導き出される先史学・考古学的な解釈を含んだ最新の論文等を読解し、幅広い視点からその結果および課題を考察する。受講生の研究テーマを考慮のうえ、いくつかの特定の時代および地域を設定する。とくに機器分析を用いた材質分析に関する最新の学術論文を選択し、そこに利用されている分析手法の理論を理解する。それらの論文を読解、考察しながらその方法論と課題について検討する。各回のテーマについて、毎回1名の受講生が理論についてまとめ、次に、結果の解釈・課題について研究報告をおこなう。つづいて、その内容について全体で討議をおこなう。	02DC636と同一。 2020年度開講せず。
OABACK2	先史学・考古学基礎実習	3	4.0	1・2	秋C	集中		谷口 陽子, 三宅 裕, 滝沢 誠, 前田 修	発掘調査や測量調査などのフィールドワークに参加し、基本的な作業を修得することを目標とする。あわせて、フィールドワークに参加している学群生を指導し、調査指導者として必要な基礎的能力を養うことを目標とする。	02DC637と同一。
OABACK3	先史学・考古学研究VIIA	2	1.0	1・2	春AB	火5		前田 修	考古学の理論について、おもにプロセス考古学を取り上げ、客観性と法則性を重視する歴史観および物質文化の研究方法を解説する。受講生は割り当てられた論文を講読し、論文のレビューを中心とした発表を行う。	西暦偶数年度開講。 02DC63Aと同一。
OABACK4	先史学・考古学研究VIIB	2	1.0	1・2	秋AB	火5		前田 修	考古学の理論について、おもにポスト・プロセス考古学・解釈考古学を取り上げ、歴史の主観的認識と物質文化が持つ社会的意味を重視する研究方法を解説する。受講生は割り当てられた論文を講読し、論文のレビューを中心とした発表を行う。	西暦偶数年度開講。 02DC63Bと同一。
OABACK5	先史学・考古学研究VIIIA	2	1.0	1・2					考古学における交易研究をテーマとし、過去の物資取引をあきらかにするための方法論に関して、その研究史と最新の研究動向を学ぶ。	西暦偶数年度開講。 02DC63Cと同一。 2020年度開講せず。
OABACK6	先史学・考古学研究VIIB	2	1.0	1・2					考古学における交易研究をテーマとし、国内外の研究事例を扱いながら、過去における物資取引と社会の関係について考察する。	西暦偶数年度開講。 02DC63Dと同一。 2020年度開講せず。
OABACL0	民俗学特講IA	1	1.0	1・2					民俗学における信仰伝承研究に関わる先端的な研究動向を主に歴史民俗学的研究の立場から把握する。受講者それぞれの関心に応じた問題を析出し、議論を踏まえた上で、分析を行い得る能力を高める。	02DC743と同一。 2020年度開講せず。
OABACL1	民俗学特講IB	1	1.0	1・2					「祖先祭祀研究・葬制墓制研究の現在」をテーマとして、日本および東アジアの葬制に関する民俗学および文化人類学の研究について、比較民俗学、ならびに歴史民俗学的研究視角からの講義を行う。また関連する論文を講読し、検討することでテーマに関する研究視角・方法論を学ぶ。	02DC744と同一。 2020年度開講せず。
OABACL2	民俗学特講IIA	1	1.0	1・2					本講義では、主として日本の「漁業」の民俗を対象に、民俗学初期の古典的研究から精読を行い、輪読形式で、その枠組みと方法を批判的に検討しながら、民俗学的視角と方法を展望する。	02DC745と同一。 2020年度開講せず。
OABACL3	民俗学特講IIB	1	1.0	1・2					本講義では、「漁業」をとりまくサブシステムの動態を対象に、領域横断的な研究例の検討を行う。日本に事例を主として、日本以外の例をも参照し、今日の「漁業」研究の視角と方法について展望することを目的とする。	02DC746と同一。 2020年度開講せず。
OABACL4	民俗学特講IIIA	1	1.0	1・2	春AB	金2		武井 基晃	人びとの生活に密接に関わる制度・法令に応じて、人々の日常的な営為が法制度遵守の範囲内で執り行われている、はずである。法令上できないこと、合わせざるを得なかったことなどが生活・行動にいかに関与したかを考える。	西暦偶数年度開講。 01DQ335, 02DC747と同一。
OABACL5	民俗学特講IIIB	1	1.0	1・2	秋AB	金2		武井 基晃	家族という研究対象について、変容、暮らし、ジェンダー、教育、労働、福祉、死、グローバルなど様々な方向からのアプローチを検討し、理解する。	西暦偶数年度開講。 01DQ336, 02DC748と同一。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
OABACL6	民俗学演習IA		2	1.0	1・2	春AB	木2	徳丸 亜木	民俗学における信仰伝承研究を踏まえ、民俗学ならびに関連分野の論文を講読し、受講者それぞれの研究関心からの検討を加える。民俗学における信仰伝承研究に関わる基本的な学史を主に歴史民俗学的研究の立場から把握し、問題を析出し、議論を踏まえた上で、分析を行い得る能力を高める。	西暦偶数年度開講。 02DC749と同一。
OABACL7	民俗学演習IB		2	1.0	1・2	秋AB	木2	徳丸 亜木	主に歴史民俗学的視点に関わる民俗学研究ならびに、歴史学・文化人類学・社会学・宗教学など関連領域の研究から文献を選び、講読し、批判的に検討する事により、参加者各々が歴史民俗学的研究に関する知見を深め、方法論の検討を行う。	西暦偶数年度開講。 02DC750と同一。
OABACL8	民俗学演習IIA		2	1.0	1・2	春AB	火5.6	中野 泰	柳田国男、宮本常一、桜田勝徳を取り上げ、高度経済成長期以前における民俗誌的試みを、フィールドワークやフィールドノートも含めて対象化し、民俗(族)誌の意義と可能性について検討する。	西暦偶数年度開講。 01DQ345、02DC751と同一。
OABACL9	民俗学演習IIB		2	1.0	1・2	秋AB	火5.6	中野 泰	占領期、高度経済成長期に現れた民俗(族)誌、及び、1990年代以降、近年の試みとして、領域横断的、あるいは、実験的な試みを、民俗学、社会学、人類学等から取り上げ(英語文献を含む)、民俗学的フィールドワークに基づく民俗(族)誌の意義と可能性について検討することを目的とする。	西暦偶数年度開講。 01DQ346、02DC752と同一。
OABACM0	民俗学演習IIIA		2	1.0	1・2				戦後台湾の民俗誌・実例をふまえた家族という研究対象について様々な方向から理解し、民俗学における民俗誌の分析を検討する。	02DC753と同一。 2020年度開講せず。
OABACM1	民俗学演習IIIB		2	1.0	1・2				戦前から戦中の日本統治下における台湾の社会と民俗・信仰について、当時の資料・民俗誌を講読することで理解する。特に、地域社会と人々の信仰のあり方に直結した寺廟整理に着目し、この政策がどのように始まり、地域社会にいかにか受容され、具体的にどのような手続きがなされたのかについて、当事者の生の記録を通して読み解く。これに関連して同時期の台湾において日本人・台湾人を交えた台湾の民俗の調査・研究の機運の高まりとその成果についても取り扱う。	02DC754と同一。 2020年度開講せず。
OABACM2	文化人類学特講IA		1	1.0	1・2	春AB	金3	木村 周平	人類学の学問としての特徴は何か?本講義は民族誌の記述と文化人類学理論の関係について、具体的なケースを取り上げて議論する。テーマとしては現象学、権力論、身体論を問題化した民族誌の記述とその理論的な課題について考察する。	西暦偶数年度開講。 02DC755と同一。
OABACM3	文化人類学特講IB		1	1.0	1・2	秋AB	金3	木村 周平	人類学の学問としての特徴は何か?本講義は民族誌の記述と文化人類学理論の関係について、具体的なケースを取り上げて議論する。テーマとしては経済活動、親族関係、環境、主体を問題化した民族誌の記述とその理論的な課題について考察する。	西暦偶数年度開講。 02DC756と同一。
OABACM4	文化人類学特講IIA		1	1.0	1・2				現代の文化人類学の課題や理論的な動向について学ぶ。特に1980年代以降に焦点を当て、その時代に提起された課題とそれへの応答として起きた変化、およびその後の新しい考え方や方法を理解する。授業では、こうした動向の形成に大きな影響を及ぼした著作や代表的な論文を取り上げ、そこで何が問題とされ、どのようなことが論じられているか、またどのようなスタイルで調査や記述が行われているかを把握し、それに対して自分自身がどのような立ち位置を取るかを考える。	02DC757と同一。 2020年度開講せず。
OABACM5	文化人類学特講IIB		1	1.0	1・2				現代の文化人類学の課題や理論的な動向について学ぶ。特に科学技術社会論と呼ばれる研究群が現代の人類学に与えた理論的・方法的な影響に焦点を当て、この分野の独自性や方向性の形成に大きな影響を及ぼした著作や代表的な論文を取り上げ、そこで何が問題とされ、どのようなことが論じられているか、またどのようなスタイルで調査や記述が行われているかを把握し、その可能性と限界、および自分自身がどのような立ち位置を取るかを考える。	02DC758と同一。 2020年度開講せず。
OABACM6	文化人類学演習IA		2	1.0	1・2				人間を環境世界・周囲世界の中においてポストヒューマンの視点から再考する。本演習では、脱人間中心の倫理学の可能性をポストヒューマンの多様な視点から考察し議論する。	02DC759と同一。 2020年度開講せず。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	教室	担当教員	授業概要	備考
OABACM7	文化人類学演習IB	2	1.0	1・2					本演習は民族誌の可能性について考察をした後、人類学的な問いを立てて、これを民族誌を書くことを通して、その答えを示唆する訓練を行う。演習では民族誌を分解してその構成について議論し、民族誌を書いて、建設的な批判を行う。	02DC760と同一。 2020年度開講せず。
OABACM8	文化人類学演習IIA	2	1.0	1・2	春AB	火4		木村 周平	文化人類学の主要なテーマを取り上げ、代表的な著作、論文を取り上げて講読することで、文化人類学の考え方とアプローチについて具体的に学ぶ。この授業では特に古典的なテーマである親族に焦点を当て、受講者全員で指定した文献の講読と議論を行うことで、このテーマについての広汎かつ体系的な理解を得るとともに、近年提出されている概念や理論についても検討し、その可能性と限界、および自分自身の研究をどう位置づけるかを考える。	西暦偶数年度開講。 02DC76Aと同一。
OABACM9	文化人類学演習IIB	2	1.0	1・2	秋AB	火4		木村 周平	文化人類学の主要なテーマを取り上げ、代表的な著作、論文を取り上げて講読することで、文化人類学の考え方とアプローチについて具体的に学ぶ。この授業では特に現代的なテーマである主体性や情動に焦点を当て、受講者全員で指定した文献の講読と議論を行うことで、このテーマについての広汎かつ体系的な理解を得るとともに、近年提出されている概念や理論についても検討し、その可能性と限界、および自分自身の研究をどう位置づけるかを考える。	西暦偶数年度開講。 02DC76Bと同一。
OABACNO	民俗学・文化人類学実習A	3	2.0	1	春C	応談		武井 基晃, 徳丸 亜木, 中野 泰, 木村 周平	1年次生を対象として、フィールドワークの方法論を実践的に学ぶ。フィールドワークの深め方と総合化等、今後の民俗学研究・文化人類学研究の基礎となる研究法を訓練する。民俗学・文化人類学領域全教員による指導を受け、研究テーマについての発表に基づき、参加者による討論を行う。フィールドや調査テーマについての自主学習の計画や共同学習をコーディネートする。	02DC76Cと同一。
OABACN1	民俗学・文化人類学実習B	3	2.0	1	秋C	応談		武井 基晃, 徳丸 亜木, 中野 泰, 木村 周平	1年次生を対象として、修士論文に向けたフィールドワークの実践的遂行能力を養う。フィールドや調査テーマについての自主学習の計画や共同学習のコーディネートを継続し、実習前に予備調査を行う。民俗学・文化人類学領域全教員による指導を受け、1週間程度のフィールドワークを行い、フィールドワークで得られた資料を基について報告書を作成する。	02DC76Dと同一。